

防災・防犯について

報告事項、連絡事項

原町町会 防災部長
鈴木健一

1. コロナ禍の対応

新型コロナウイルスの脅威は感染の拡大ももとより、私の生活そして精神をもむしばんでいます。仕事、学校、スポーツ、その他の事柄に関しても、人は集まらないと前へ進めないことがよくわかる1年でした。また多くの情報はメディアを通して流れてきますが、「やっていいの」「動いていいの」という判断にはどう考えても決め手がなく、不安の中ストレスを抱えている状態が続いています。

情報を整理して、話し合い、まとめ、そして発信する。

このような観点、努力、チャレンジが必要なのでしょう。

以前にも連絡紙に載せましたが、あらためて「うつらないために、うつさないために」を裏面に掲載しました。

2. 文京区 安全・安心まちづくり

平成28年12月に安全・安心まちづくり推進地区に指定されました。

コロナ禍の影響で活動が停滞しがちですが、新たな方法で地域のパトロールなどを復活させてまいりますので、皆様のご協力をお願いします。

なお平成29年には文京区の助成と、富阪警察署の協力を得て監視カメラを2カ所設置いたしました。(推進地区のみ)

監視カメラは、警察の有力な捜査の手助けになるようです。

特殊詐欺など、また新たな手口もあるようです。

3. 私の防災マップ作り

昨年、東洋大学の地域防災を研究している先生のお力添えと、ボーイスカウト文京1団の協力を得て「あぶない」を探せというテーマで原町を探索いたしました。

最終的イメージの防災マップは完成しなかったのですが、完成しなかった過程で二つのことが見えてきました。

(1)町会単位、家族単位の防災マップは行政では作らない(作れない)

(2)厳冬、夜間、停電、雨と最悪の想定時に必要なのは、とりえずの一時待避所が必要
そしてこれらを実現するには、地域の理解・協力・参加が必須だということです。

4. まとめ・所感

地域の防災、防犯への対処能力を高めるには、より多くの参加者が必要になります。

町会としてはただ単に訓練ではなく、みんなが参加しやすい行事を楽しく行い、意見交換ができる場を少しでもおおく設けて欲しいのです。

そしてその情報まとめ、みなさんにフィードバックするシステムが必要です。

以上